



2025年8月29日

各位

会社名 株式会社RS Technologies  
代表者名 代表取締役社長 方 永義  
コード番号 3445 東証プライム市場  
問合せ先 経営企画室長 田渕 勝也  
電話 03-5709-7685

## 2025年12月期第2四半期 決算説明会 書き起こし公開のお知らせ

当社は、2025年8月28日に開催しました「2025年12月期 第2四半期決算説明会」に関する書き起こしを公開いたしましたので、お知らせいたします。

当説明会では、決算概況についてご説明した後、お寄せいただいたご質問にお答えいたしました。株主・投資家の皆様におかれましては、ぜひご覧いただけますと幸いです。

### 記

#### 1. 決算説明会概要

開催日時：2025年8月28日

説明者：代表取締役社長 方 永義  
取締役上席執行役員 遠藤 智  
財務経理部長 河路 将人

#### 2. 資料格納先

決算説明資料：

<https://contents.xj->

[storage.jp/xcontents/AS02916/1a527eb3/37f8/494f/b869/e7848df617b1/140120250813540750.pdf](https://storage.jp/xcontents/AS02916/1a527eb3/37f8/494f/b869/e7848df617b1/140120250813540750.pdf)

アーカイブ動画は2025年9月5日に当社WEBサイトIRページに掲載予定です。

以上

2025年12月期 第2四半期

# 決算説明資料



株式会社 RS Technologies プライム市場 3445

2025年8月13日

COPYRIGHT © RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

方:代表取締役社長の方永義と申します。

本日は当社の2025年12月期第2四半期 決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日私から皆様に特にお伝えさせていただきたいことは2点ございまして、1つは上期の各セグメントの事業は順調に進捗したということ、2つめは、M&Aにより取得した新規事業は着実に歩みを進めているということでございます。

詳しい決算概況は取締役の遠藤からご説明いたします。

遠藤:遠藤と申します。

本日はご参加いただきありがとうございます。

私から、決算概況をご説明した後、皆様からのご質問にお答えいたしますので、ご不明な点は後ほどご質問ください。

## 目次

01	決算概要	.....	P.03
02	中期経営計画 (25年～27年)	.....	P.10
03	新規事業 (LEシステム/RSPDH)	.....	P.22
04	会社概要	.....	P.29
05	Appendix	.....	P.52

# 2025年12月期 第2四半期 決算概要

01

それでは説明をはじめます。

## 上期業績サマリー



売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益
37,999 百万円 前同比 +26.4%	7,103 百万円 前同比 +16.8%	7,157 百万円 前同比 △9.4%	3,800 百万円 前同比 △0.9%

- ・ 中期経営計画達成に向けて、上期は順調に事業進捗
- ・ 上期は為替の変動が経常利益へマイナスインパクトとなった
- ・ 下期からはウエーハ再生事業、プライムウエーハ事業ともに設備投資による増産を予定しており、更なる成長を目指す

### 上期決算の振り返り

#### ウエーハ再生事業

引き続き国内外の半導体工場及びファウンドリからの需要は強く、三本木工場、台湾工場ともにフル稼働で生産。

#### プライムウエーハ事業

主力商品であるパワー半導体向け8インチウエーハは、中国国内の需要増加を背景に、出荷枚数が増加。中国8インチウエーハの市況環境の影響から単価は低下したものの、増産効果及び製品MIXにより高水準の営業利益率を維持。

#### 半導体関連装置・部材等事業

新規事業のRSPDHが増収増益の主要因となった。既存事業である商社機能、DGテクノロジーズの業績は計画通り進捗。

### 下期の展望

2025年計画の増産設備が下期より本格稼働し、更なる出荷枚数増加を目指す。

8インチウエーハの2025年増産計画の月産生産枚数に下期から到達予定。シリコン部材の製造・販売も強化し更なる成長を目指す。

DGテクノロジーズにてエッチング装置向け消耗部材の販路拡大を目指す。LEシステムにおいては、トータルエネルギーソリューション事業(蓄電池事業、電力コンサル)に注力。

まず上期の業績サマリーです。

売上高は前年同期比26.4%増の379億9,900万円、営業利益は16.8%増の71億300万円、経常利益は9.4%減の71億5,700万円、親会社に帰属する中間純利益は0.9%減の38億円となりました。

ウエーハ再生事業の事業環境は、半導体市場の成長を背景に三本木工場、台湾工場ともに良好で、増産後も常にフル稼働で操業している状況です。

中期経営計画達成に向けても順調に進捗いたしました。

プライムウエーハ事業も、増産設備投資により主力商品である8インチウエーハの出荷数量が増加いたしました。

シリコン部材の需要状況も回復基調となっており、ウエーハとシリコン部材ともに高水準の営業利益率を維持することができました。

下期からも8インチウエーハ、それからシリコン部材の製造、販売を強化し更なる成長を目指したいと考えております。

半導体関連装置・部材等事業は、構成としてDGテクノロジーズと商社ビジネス、それから新規事業のLEシステムとRSPDHが含まれております。

今期より当社グループとして連結となったRSPDHが、当セグメント増収増益の主要因となりました。

既存事業であるDGテクノロジーズ、商社ビジネスに関しましては、計画通りに推移いたしました。LEシステムにおいては、下期からはウォーターバッテリーいわゆるバナジウムレドックスフロー用電解液事業のみならず、トータルエネルギーソリューション事業として、蓄電池事業、電力コンサルにも注力していく計画です。

## 米国関税影響について



- 連結業績への影響は極めて軽微であると推定

事業	商材	影響	コメント
ウェーハ再生事業	再生ウェーハ	無	関税対象外のため影響なし。対象となった場合、米国への出荷はセグメント全体の約4%であることから影響は軽微。
プライムウェーハ事業	5、6、8インチウェーハ	無	中国国内で、製造販売、原材料調達まで完結しているため影響なし。お客様であるデバイスメーカーも中国で製造販売を完結させているため、間接的な影響も軽微。
	シリコン部材	無～軽微	現状は影響なし。米国向けの営業活動に一部支障が発生する可能性はあるが、中期経営計画への影響はなし。
半導体関連装置・部材等事業	半導体製造装置・レーザーモジュール (商社機能)	無～軽微	現状は影響なし。米国向けの営業活動に一部支障が発生する可能性はあるが、中期経営計画への影響はなし。
	エッチング装置用消耗部材 (DGテクノロジーズ)	無	関税対象外のため影響なし。
	ウォーターバッテリー用電解液 (LEシステム)	軽微	現状は影響なし。米国向けの営業活動に一部支障が発生する可能性はあるが、中期経営計画への影響はなし。
	光ピックアップモジュール (RSPDH)	軽微	米国への出荷はなし。組立てに使用する副資材に一部米国製のものがあるが影響は軽微。
12インチ事業 (持分法適用子会社SGRS)	12インチプライムウェーハ	無～軽微	現状は影響なし。中国ウェーハメーカー全体への製造装置等輸入の混乱が一部発生し市場立ち上がりか運行する可能性はあるが、長期的には中国12インチ内製化の動きが強まり、追い風になると予測。

(2025/8/13時点)

米国の関税影響についてですが、現時点では連結の業績、中期経営計画への影響は極めて軽微であると考えております。

まず再生ウェーハについては、現在は関税対象外でございますので、影響はございません。もし今後対象となった場合も、米国への出荷はセグメント全体の4%程度であることから影響は軽微でございます。

プライムウェーハ事業のウェーハについては、製造販売、それから原材料の調達まで基本的に中国国内で完結しておりますので、影響はございません。

シリコン部材については、今後米国向けの営業活動に一部支障が発生する可能性はございますが、中期経営計画への影響はございません。

半導体製造装置・部材等事業の商社ビジネス、LEシステムのバナジウムレドックスフロー用電解液も同様に、今後の営業活動に一部支障が発生する可能性はございますが、中期経営計画への影響はございません。

RSPDHは、副資材に一部米国製を使用しておりますが、影響は極めて軽微です。

## 2025年12月期第2四半期 決算概況



(百万円)	2024年12月期 第2四半期	2025年12月期 第2四半期	前同比	差額
売上高	30,068	<b>37,999</b>	26.4%	7,931
売上原価	20,919	<b>26,379</b>	26.1%	5,460
売上総利益	9,149	<b>11,620</b>	27.0%	2,471
販売管理費	3,066	<b>4,516</b>	47.3%	1,450
営業利益	6,082	<b>7,103</b>	16.8%	1,021
営業外収益	2,089	① <b>1,502</b>	△28.1%	△587
営業外費用	275	② <b>1,448</b>	426.5%	1,173
経常利益	7,896	<b>7,157</b>	△9.4%	△739
親会社株主に帰属する 中間純利益	3,833	<b>3,800</b>	△0.9%	△33
一株当たり中間純利益	145.42	<b>143.79</b>	△1.1%	△1.6

### 主な要因説明

- ①  
為替差益:659百万円→0円  
補助金収入(中国政府より):607百万円→704百万円
- ②  
為替差損:0円→822百万円  
持分法による投資損失:210百万円→505百万円  
・事業成長を見込んだ投資フェーズであることから投資損失が増加するものの、事業は着実に進捗(P46参照)  
・2025年1月に設備投資を用途とした増資を行ったことにより当社持分比率が上昇

当第2四半期の決算の概況です。  
売上高、営業利益は前年同期から2桁成長で上期を終えることができました。

営業外損益の補足として、  
補助金収入は、毎期計上されている中国政府からプライムウェーハ事業のGRITEKへの補助金です。  
為替変動としては、前年同期比14億8,100万円減となりました。  
当社グループでは適正レートでの為替予約を実施し為替リスクを最小化させる取り組みを行っておりますが、第2四半期は、米ドルに対しニュー台湾ドル高も影響し、このような結果となりました。

また営業外費用に計上されている持分法による投資損失ですが、中国における12インチ事業は現在事業成長のため投資フェーズであることから、損失額が増加いたしました。  
また今年1月に当該事業へ設備投資用途として、中国子会社GRITEKを通じた増資を実施いたしました。これにより当社持分比率が上昇したことも、損失取込み額増加に影響しております。  
投資フェーズではあるものの、事業進捗としては、資料の46ページのとおり、着実に前進しております。

## 2025年12月期第2四半期 セグメント動向



- ・ウエーハ再生事業は、増産設備投資により生産数量が増加し、前年同期比増収増益で推移
- ・プライムウエーハ事業は、8インチウエーハの安定した需要状況により、高水準の営業利益率を維持
- ・半導体関連装置・部材等事業は、今期より新規事業RSPDHの売上高が加わり前年同期比増収増益

(百万円)

	ウエーハ再生事業		プライムウエーハ 製造販売事業		半導体関連装置・ 部材等事業		その他、調整額		連結合計	
		前同比		前同比		前同比		前同比		前同比
売上高	13,371	+21.2%	9,998	△1.1%	15,528	+65.1%	△899	—	37,999	+26.4%
営業利益	4,742	+12.1%	2,330	+5.6%	909	+100.2%	△878	—	7,103	+16.8%
営業利益率	35.5%	△2.9pt	23.3%	+1.5pt	5.9%	+1.1pt	—	—	18.7%	△1.5pt

COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

7

セグメント動向です。

ウエーハ再生事業は、前年同期比で売上高21.2%増、営業利益12.1%増となりました。前年同期比では、主に増産設備投資による出荷数量の増加が業績に貢献いたしました。一方営業利益率は2.9ポイント減となりました。

これは、第1四半期に続き、原価率の高い販売ウエーハの比率が上昇したことが影響しております。

プライムウエーハ事業は、前年同期比で売上高1.1%減、営業利益5.6%増となりました。増産投資により8インチウエーハの生産・出荷数量は増加いたしましたが、中国8インチ市況の影響を受けて単価が減少いたしましたので、プライムウエーハの売上高としては前年同期比はほぼ横ばいで着地いたしました。

一方、シリコン部材に関しては、前年末の在庫調整からは回復基調となりましたが、若干前年には届かなかったことが売上高1.1%減につながりました。

半導体関連装置・部材等事業は、今期よりRSPDHの売上高が加わり前年同期比増収増益となりました。

またLEシステムが第1四半期に計上したスペインの蓄電所向けのバナジウムレドックスフロー用電解液の売上高も含まれております。

## 2025年12月期第2四半期 セグメント別動向 四半期実績グラフ



- ・ウェーハ再生事業は、前四半期比で原価率の高い販売ウェーハの売上高比率が上昇した
- ・プライムウェーハ事業は、増産投資効果による8インチプライムウェーハの生産数量の増加及び、需要回復によりシリコン部材の出荷数量が増加
- ・半導体関連装置・部材等事業は新規事業の取込みによる増収増益に加え、既存事業も改善傾向

### ウェーハ再生事業

### プライムウェーハ事業

### 半導体関連装置・部材等事業



COPYRIGHT©RS TECHNOLOGIES CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED

セグメント別の四半期動向です。

ウェーハ再生事業は、堅調に推移しております。

例年通り第2四半期は工場の稼働をとめた大型メンテナンスを行いましたので、そのコストとして数千万円が第1四半期比で増加となっております。

今期の増産設備は、一部上期から稼働しておりますが、下期からフル稼働となりますので、更なる生産能力増強を見込んでおります。

次にプライムウェーハ事業についてですが、

こちらの増産設備に関しても、一部上期から稼働をしておりますが、本格稼働は下期からとなります。

市場の需要動向に合わせた新製品の開発にも取り組んでおりますので、更なる生産数量増加を目指してまいります。

営業利益率に関しては、第1四半期から、1.3ポイント上昇いたしました。

これは、生産性向上、原材料の調達戦略、それから営業利益率の高いシリコン部材の比率が上がったことに起因いたします。

半導体関連装置・部材等事業では、新規事業RSPDHの光ピックアップモジュールを期初計画より前倒して生産、出荷できたことが要因で、

売上高は前四半期比26億円増となりました。

既存事業である商社ビジネスは仕入れと販売のタイミングにより四半期ごとで波はあるものの、通期見通しでは計画通りの推移となりました。

DGテクノロジーズは、半導体市況およびエッチング装置市況の回復に連動し、前年同期を上回る成長となっております。

■ 連結貸借対照表

(百万円)

	2024年12月期	2025年12月期 第2四半期
流動資産	124,894	111,543
現金及び預金	85,224	76,245
受取手形及び売掛金	23,417	21,886
商品及び製品	6,678	4,822
固定資産	57,252	61,635
有形固定資産	45,575	43,311
無形固定資産	689	580
投資その他資産	10,987	17,742
資産合計	182,146	173,178
流動負債	34,804	30,258
支払手形及び買掛金	8,302	7,862
有利子負債	8,754	9,771
固定負債	11,794	10,484
長期借入金	743	353
負債合計	46,598	40,743
純資産	135,548	132,435
負債・純資産合計	182,146	173,178

■ キャッシュ・フロー

(百万円)

	2024年12月期 第2四半期	2025年12月期 第2四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	6,914	8,701
投資活動による キャッシュ・フロー	△5,025	△11,139
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,882	△1,345
現金及び現金同等物に 係る換算差額	6,494	△4,567
現金及び 現金同等物の増減額	6,502	△8,351
現金及び 現金同等物の期首残高	69,645	83,759
現金及び 現金同等物の期末残高	76,147	75,408

貸借対照表とキャッシュフローです。  
純資産は、為替等の影響により前年期末比31億円減の1,324億円となりました。

今年1月の持分法適用子会社SGRSへの増資約79億円が、貸借対照表の投資その他資産と、キャッシュフローの投資活動によるキャッシュフローに影響しております。

第2四半期の決算説明は以上となります。  
ご清聴ありがとうございました。

## 質疑応答

Q1：中期経営計画の各セグメントの上期進捗状況を教えてください。

A1：（遠藤）中期経営計画のセグメントごとの内訳は開示しておりませんが、上期の事業環境はどのセグメントも悪くありませんでした。計画比ではプライムウェーハ事業が若干弱かったものの、それは半導体関連装置・部材等事業のRSPDHの増収増益でカバーすることができました。

Q2：中国子会社からの配当が定期的にあると前回の説明会で聞きましたが、今期もあるのでしょうか。

A2：（河路）中国子会社からは基本的に年2回の配当があり、この第2四半期では今期1回目の配当を受け取りました。

Q3：補助金収入はいつまで見込めますか。また、金額は今後どのように変化しますか。

A3：（河路）中国政府の方針によるので明確に長期的な見込みをお伝えすることはできませんが、しばらくは同程度が継続すると想定しています。

Q4：M&Aについて今後の方針を教えてください。

A4：（方）当社はM&Aを通じて成長してきた会社であり、今後もこれを武器に成長していきたいと考えています。引き続き半導体関連を中心に検討し、その他LEシステムのような新エネルギー関連なども対象に考えます。チャンスがあれば積極的にグローバル展開をしていきたいと考えています。

Q5：M&Aは中国市場を中心に考えられますか。

A5：（方）中国市場だけでなく、日本もメインに考えていますし、欧米等も検討しグローバルな展開をしていきたいと考えています。

Q6：配当方針について教えてください。

A6：（方）毎期の業績に応じての判断にはなりますが、増配を継続し今後も株主様への還元に努めたいと考えております。しかし当社は成長フェーズであることから、現在は資金を配当以外にも設備投資やM&Aに使用し成長につなげたいと考えております。将来的な目標にはなりますが、配当性向30%を達成したいと考えています。

Q7：サクセッションプランについてのお考えはありますか。

A7：（方）2022年に若手育成プランを策定し、これまでより若い世代を役員として抜擢いたしました。また、遠藤や河路のような役員、管理職に、中国、台湾、欧米のマーケットを一緒に見て回らせ、普段から経営を勉強してもらっています。彼ら以外にもグローバルに活躍できる社員が複数おり、事業を推進してくれていますので、当社には次世代リーダーとしてふさわしい人材が既にたくさんいると考えています。

Q8：株価についての見方と、もし株価対策があれば教えてください。

A8：（方）私自身も現在の株価に決して満足しているわけではありません。会社の代表として、IR活動などを通じて、実績が株価に反映されるよう日々努力を続けております。今後も皆様にご満足いただけるような活動をしてまいります。

<ウェーハ再生事業関連>

Q9：ウェーハ再生事業の2025年設備投資の状況を教えてください。

A9：（遠藤）2025年は三本木工場、台湾工場それぞれ月産2万枚の増産計画を公表しています。台湾は第2四半期から増産が完了しており、三本木は下期から増産設備が本格稼働します。これにより、三本木工場は月産34万枚、台湾工場は月産29万枚の生産能力となります。

Q10：ウェーハ再生事業の中長期的な事業環境についてどのように見られていますか。

A10：（遠藤）現時点での事業環境は非常に良く、この良好な状況は継続すると見えています。背景としては、半導体市場の成長、特に国内外の半導体工場新設、AI対応等半導体製造の技術革新、新製造装置の導入が追い風となってまいります。こういった需要に対応するため、2027年からは三本木の第7工場、台湾の第2工場を稼働させ生産能力を増強する計画を公表いたしました。

Q11：第2四半期のウェーハ再生事業の営業利益率は直近数年の四半期実績の中でも低い水準となっており、低下傾向に見えます。原価率の高い販売ウェーハの比率が増加したことが要因の1つとのことですが、こうした傾向は今後も続くのでしょうか。

A11：（遠藤）再生ウェーハの営業利益率は安定して高い水準を維持しています。原価率の高い販売ウェーハが増えたことで、セグメント全体の営業利益率は若干下がっていますが、これはニーズに応えた結果です。この状況はしばらく継続すると思いますが、原価率の高い販売ウェーハの割合が大きく増えることはあまり考えていません。

<プライムウェーハ事業関連>

Q12：説明にあったGRITEKの営業利益率が高い要因の1つ「生産性向上」とは具体的にどのようなことですか。

A12：（遠藤）過剰投資をせずタイムリーな投資ができていて、設備は常に高い稼働率を維持しています。また、継続的なコスト削減施策や、原材料調達戦略、中国国内の優遇政策の活用も営業利益率向上に貢献しています。

Q13：プライムウェーハの競争環境、需要の見通しを教えてください

A13：（方）今期の中国マーケットの競争環境は、前年より激化しています。しかし、当社の主力製品であるパワー半導体用をメインとした8インチウェーハの落ち込みはあまりないと理解しています。環境変化の激しい12インチウェーハに関しては慎重に設備投資をしており、現在の生産能力は11万枚であるため、大きな損失には至っておりません。

Q14：中国における12インチの市況感を教えてください。

A14：（遠藤）中国内の12インチウェーハメーカー各社は品質向上、設備投資を凄まじいスピードで進行しており、すでに市場が立ち上がり始めています。いずれは中国の方針として、国産ウェーハが優先的に使われるようになっていくと考えています。現時点ではまだ8インチがメインであるものの、2027年以降には12インチが8インチの需要を上回ると予測しています。

Q15：12 インチ事業（持分法適用子会社 SGRS）の戦略と持分比率を引き上げた背景について教えてください。

A15：（遠藤）当社は5, 6, 8 インチから量産してきた強みがあり、8 インチでのパワー半導体用ウェーハの実績をベースに、まずは12 インチのパワー半導体用ウェーハ（IGBT 等）を製品化しています。これを基にメモリやロジック向けのボリュームゾーンへ進出する戦略です。2027 年頃から中国国内で12 インチ市場が本格的に立ち上がると考えており、そのタイミングに合わせて設備投資を行います。

（方）当初はリスクを抑えて比率を調整していましたが、SGRS の品質が安定してきたため、リスクが低いと判断し増資を実行しました。今後もマーケットと対話しながら、30 万枚の設備投資に合わせて比率を上げていくことも検討しています。

Q16：中国における再生ウェーハの状況について教えてください。

A16：（遠藤）市場は徐々に広がっております。当社は2027 年頃の12 インチ市場拡大を見据えて設備投資を行い、中国の再生ウェーハ需要を取り込む計画です。顧客は、ほぼ100%が中国国内の半導体メーカーです。

#### <半導体関連装置・部材等事業関連>

Q17：1Q 比 営業利益率 9.9 ポイント増の要因を教えてください。

A17：（河路）RSPDH の光ピックアップモジュールの生産と出荷を前倒しで行ったことで、生産効率が上がって営業利益率上昇につながりました。

Q18：RSPDH の状況をお伺いしたいです。

A18：（方）今期の売上高目標 100 億円は達成できる見込みです。来期以降は事業内容を大きく変更し、車載カメラモジュール事業をメインとする計画で、現在中国でのパートナーを探している状況です。

Q19：LE システムの状況をお伺いしたいです。

A19：（方）バナジウムレドックスフロー用電解液の生産を続けながら、電気料金最適化コンサルティングや蓄電池事業などにも注力しており、これらも順調に進捗しています。

Q20：LE システムに関して、バナジウムレドックスフロー用電解液の中国での展開を知りたいです。

A20：（方）今後は、電解液だけでなく、OEM でセルも作り、セットでの事業展開をしたいと考えています。現在建設準備中の徳州市の工場では主に電解液を製造します。その他にも中国工場の建設を検討しており、そこでは原材料となるバナジウムを生成し、日本への輸入や他工場へ提供をしたいと考えております。

以上